

2019年3月期連結決算 セグメント別損益及び貸借対照表説明

取締役専務執行役員 池見 賢

2019年5月21日



1. 連結損益計算書

(単位:億円)

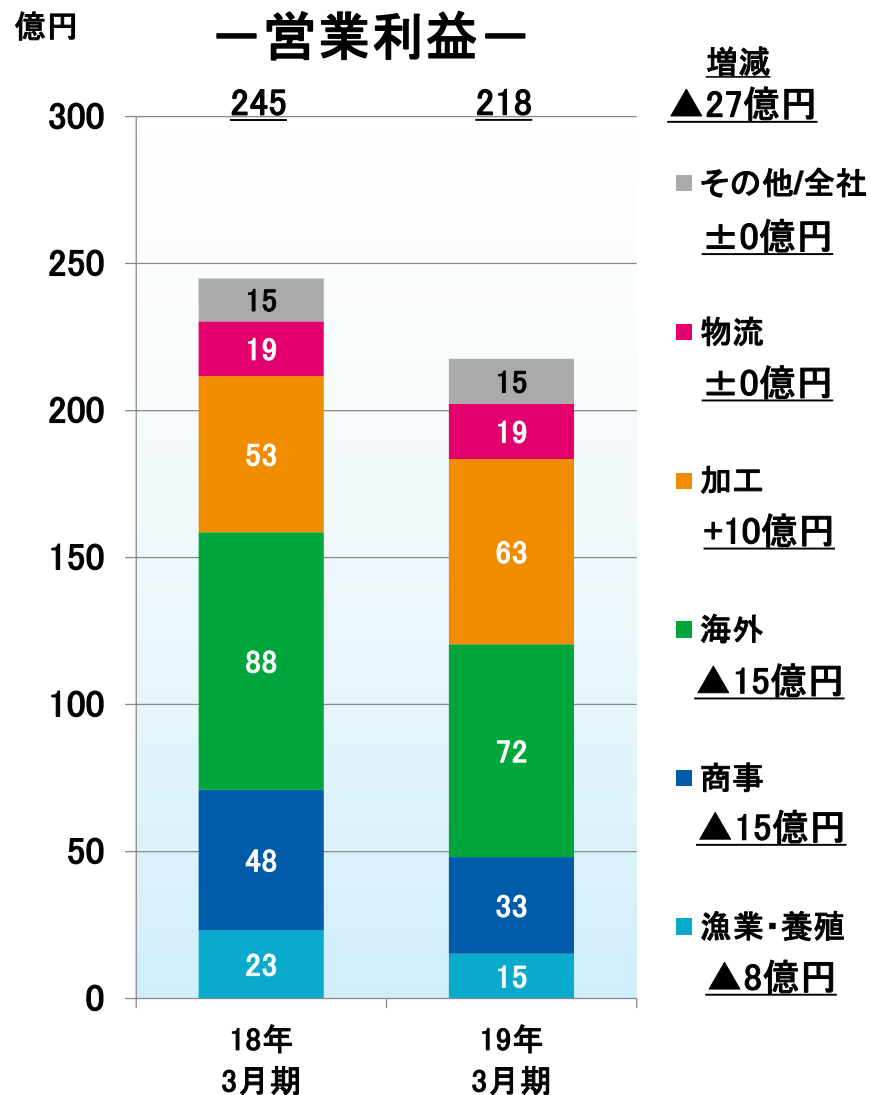
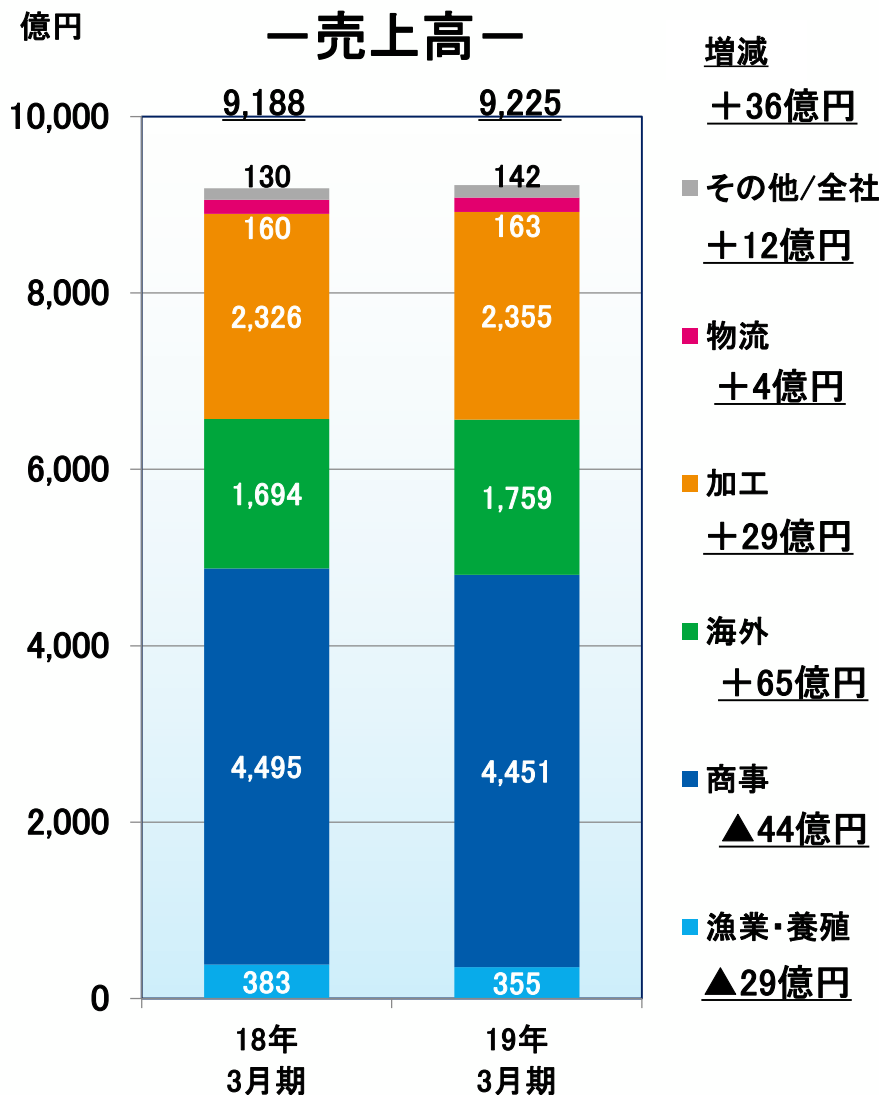
	19年3月期	18年3月期	増減	【主要科目】
売上高	9,225	9,188	36	営業外収益
売上原価	7,986	7,937	49	受取配当金 10億円
売上総利益	1,238	1,251	▲ 13	持分法による投資利益 12億円
販売費・一般管理費	1,021	1,006	15	為替差益 9億円
営業利益	218	245	▲ 27	営業外費用
営業外収益	59	58	1	支払利息 18億円
営業外費用	24	24	0	特別利益
経常利益	252	279	▲ 27	投資有価証券売却益 7億円
特別利益	47	14	33	関係会社出資金売却益 9億円
特別損失	34	26	8	受取保険金 29億円
税金等調整前当期純利益	265	267	▲ 2	特別損失
法人税等	76	73	3	固定資産処分損 6億円
非支配株主に帰属する当期純利益	22	33	▲ 11	減損損失 7億円
親会社株主に帰属する当期純利益	167	161	6	災害による損失 20億円

2. 2019年3月期セグメント/ユニット別実績

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売 上 高			営 業 利 益		
		19年 3月期	18年 3月期	増減	19年 3月期	18年 3月期	増減
漁業・養殖	漁業・養殖	355	383	△ 29	15	23	△ 8
商事	水産商事	1,516	1,499	17	28	34	△ 7
	荷受	2,395	2,429	△ 34	4	7	△ 3
	畜産商事	540	567	△ 28	2	6	△ 5
	計	4,451	4,495	△ 44	33	48	△ 15
海外	海外	583	542	41	41	50	△ 10
	北米	1,176	1,152	24	32	37	△ 5
	計	1,759	1,694	65	72	88	△ 15
加工	家庭用冷凍食品	590	607	△ 17	14	14	1
	家庭用加工食品	403	390	13	22	7	15
	業務用食品	1,192	1,178	14	11	19	△ 8
	化成	170	151	19	15	14	2
	計	2,355	2,326	29	63	53	10
物流	物流	163	160	4	19	19	0
	その他	142	130	12	11	8	3
	全社	-	-	-	4	7	△ 3
	合計	9,225	9,188	36	218	245	△ 27

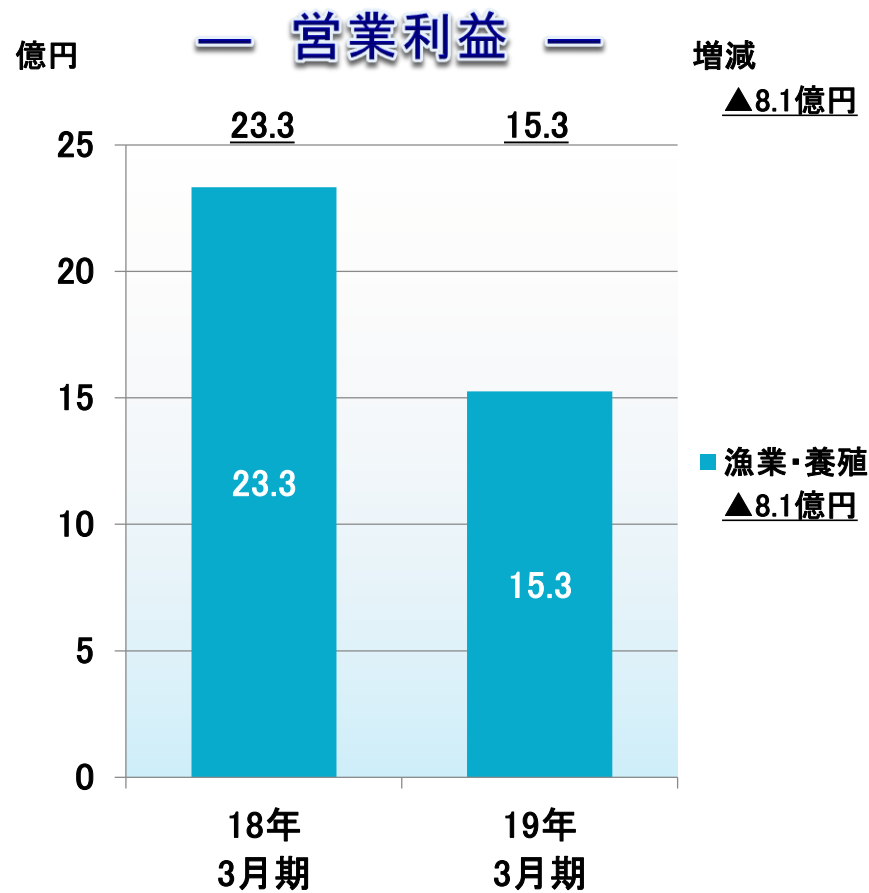
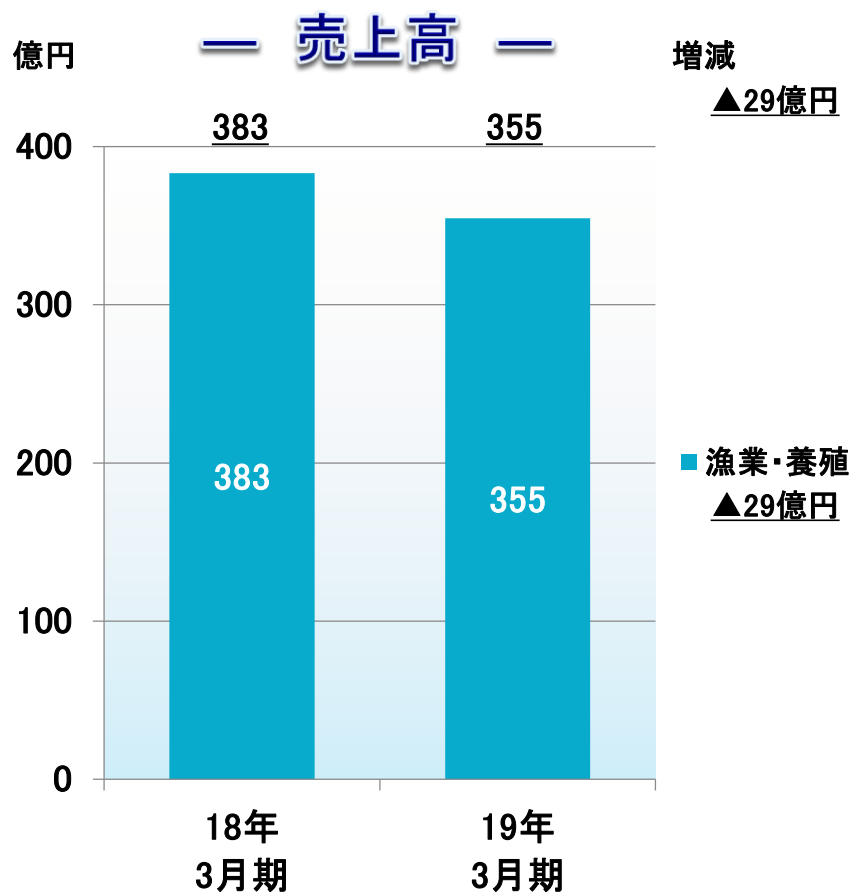
3. セグメント別 売上高／営業利益



4-①. 漁業・養殖セグメント

■事業概況:

度重なる台風の影響による養殖クロマグロ出荷減により減収、マグロ・カツオの魚価安による利益率低下により減益。



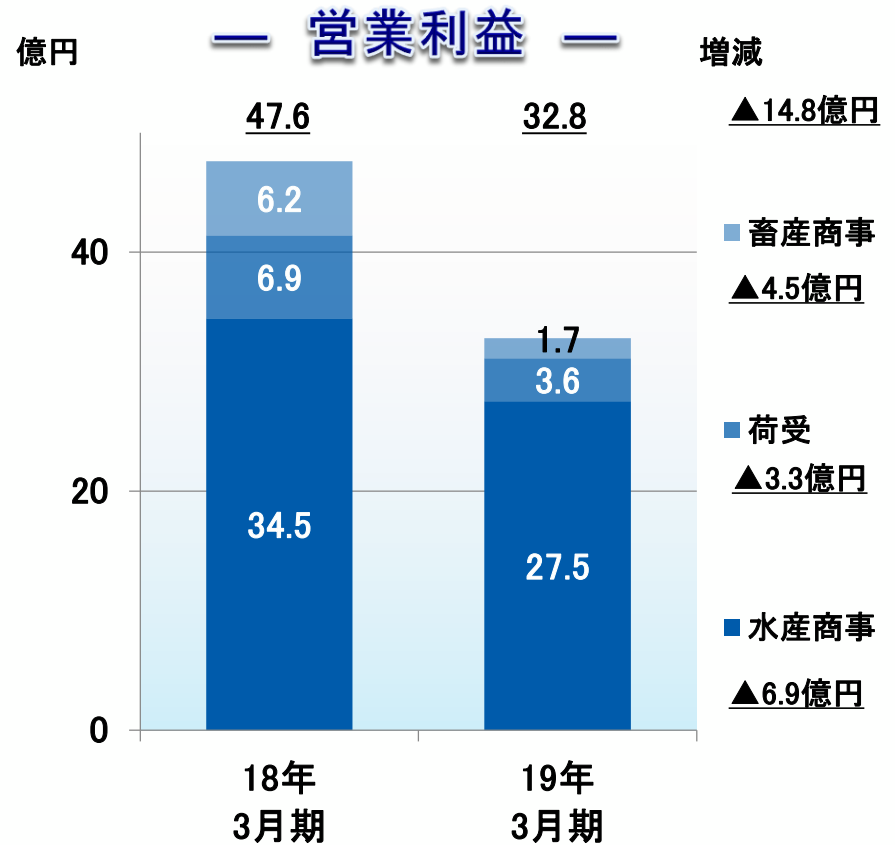
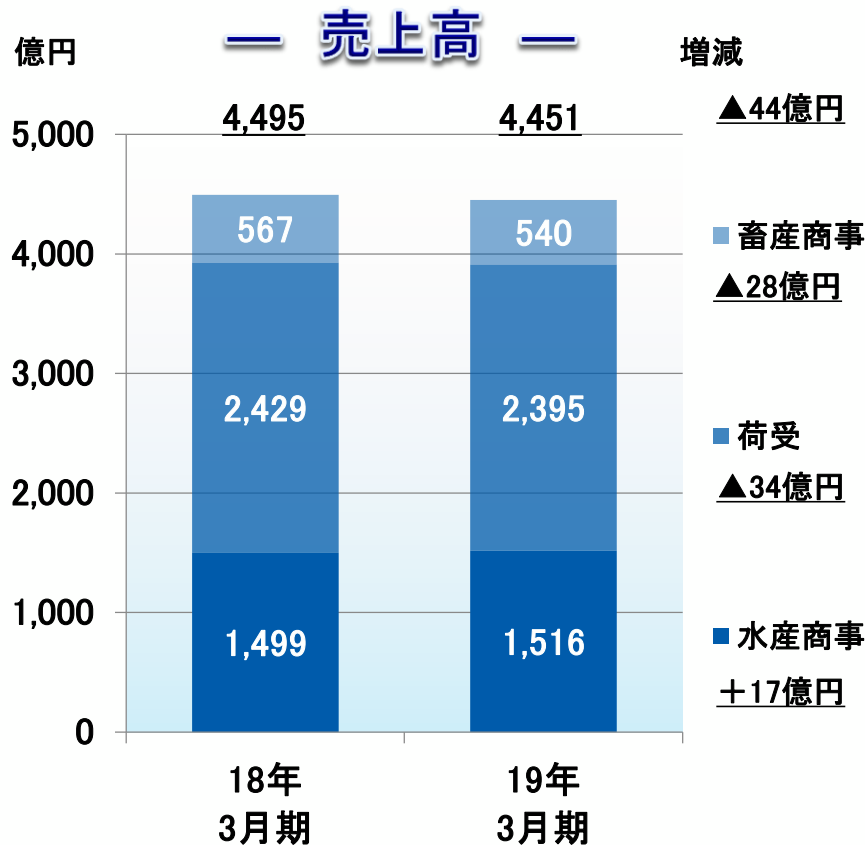
4-②. 商事セグメント

■ 事業概況:

[水産商事] 主要魚種の多くが高値圏にあり増収も、魚価高や円安によるコスト増の影響により減益。

[荷受] 夏場の天候不順による鮮魚取扱高の減、および冷凍魚の魚価高を売価に転嫁できず、減収減益。

[畜産商事] 鶏肉・豚肉の取り扱い減、および牛肉・鶏肉の利益率低下により、減収減益。



4-③. 海外セグメント

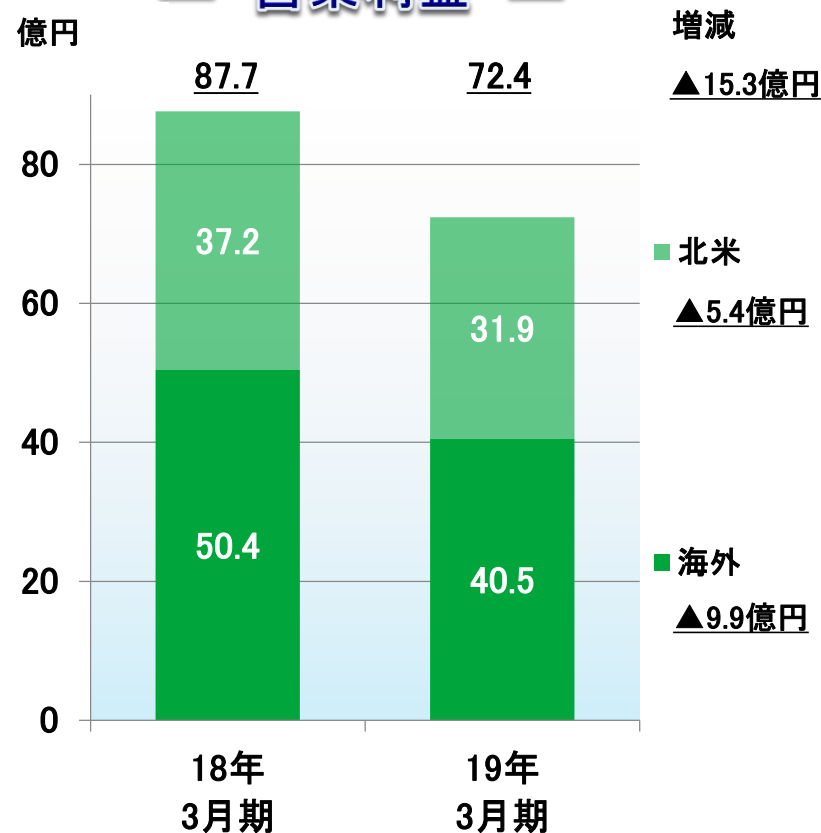
■ 事業概況:

[海外] タイペットフード事業、NZ操業漁船追加による売上増も、タイのエビ輸出およびNZおよびAUの漁獲が振るわず、増収減益。
 [北米] 助宗すりみの効率的な生産と日欧米主体の順調な販売、およびエビ・タコなど欧州での販売拡大による売上増も、マス不漁による加工品の製造減と魚価高騰に加え、為替変動の影響もあり、増収減益。

— 売上高 —



— 営業利益 —



4-④. 加工セグメント

■事業概況:

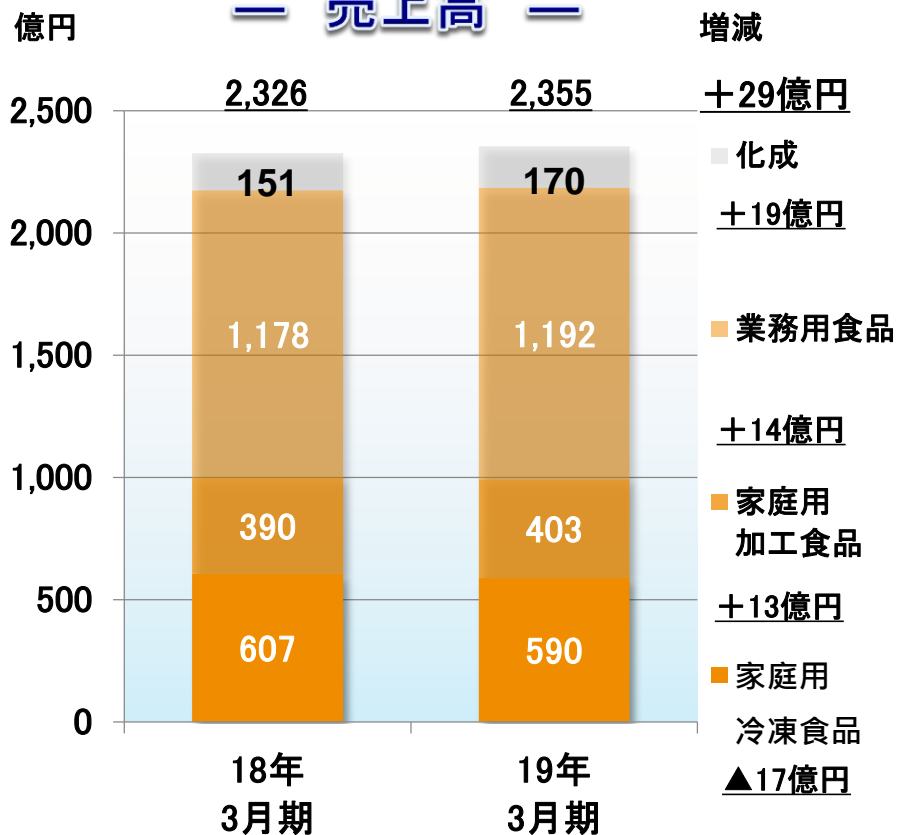
[家庭用冷凍食品] 弁当向け商品販売減も、工場の生産性改善により減収増益。

[家庭用加工食品] サバ・イワシなどの青魚缶詰の需要増、およびデザート事業で収益性改善を重視した販売により、増収増益。

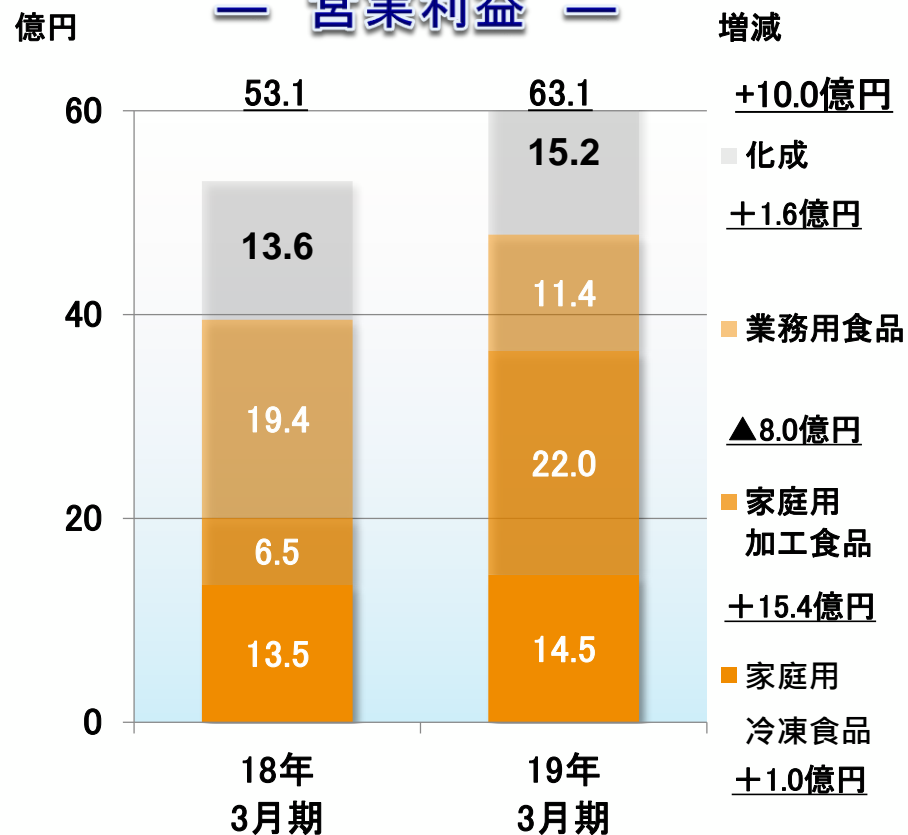
[業務用食品] 介護食・CVS等の取組みが下支えし増収も、水産原料等の価格高騰、自社工場製品の販売低調により減益。

[化成] フリーズドライ製品および機能性表示食品制度を追い風としたDHA・EPAの販売が好調に推移し、増収増益。

— 売上高 —

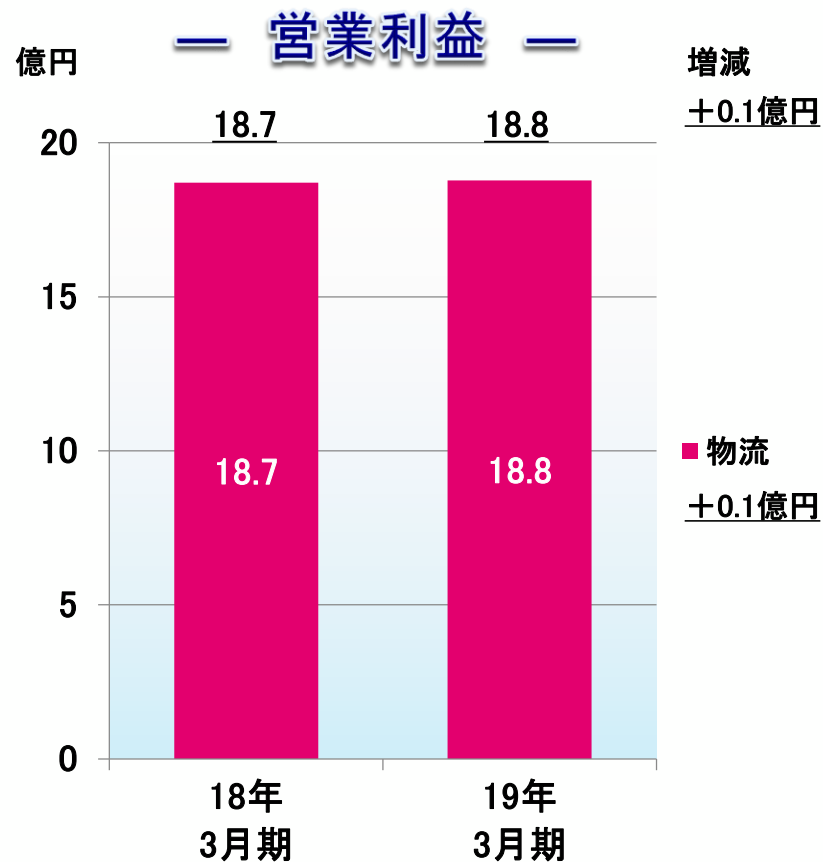
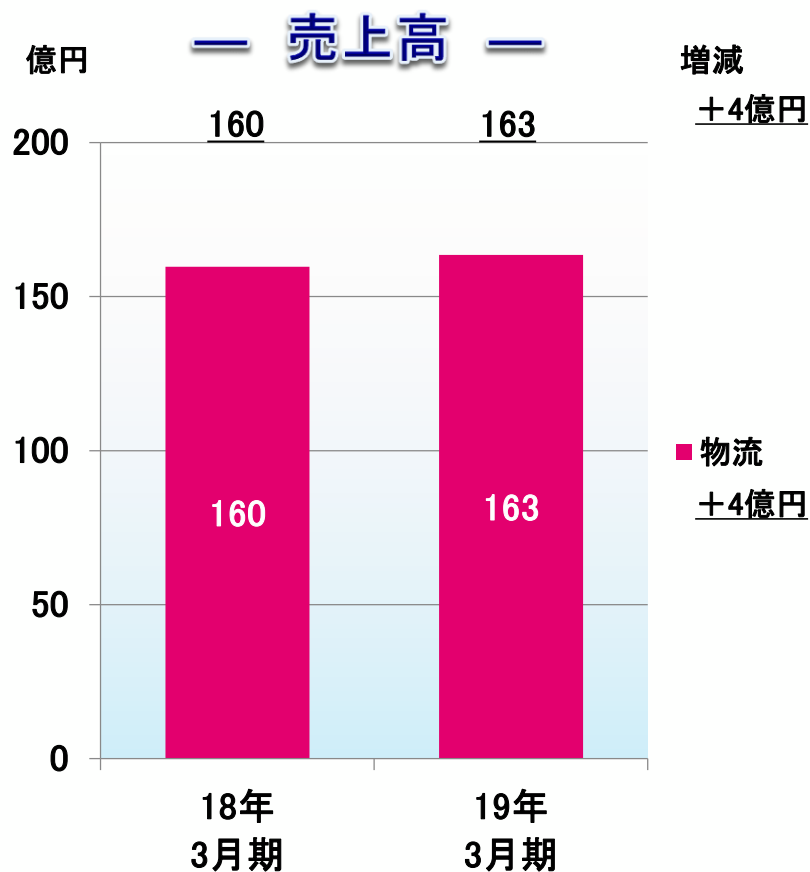


— 営業利益 —



4-⑤. 物流セグメント

■事業概況：燃料調整費の上昇に伴う動力費の増加や労務コストの上昇、平和島物流センターの新規稼働に伴う賃借料増も、首都圏をはじめとする大都市圏において旺盛な保管需要を取り込んだことにより、増収増益。



5. 連結貸借対照表

(単位: 億円)

	19年3月末	18年3月末	増減		19年3月末	18年3月末	増減
流動資産	2,994	2,922	72	流動負債	2,038	2,198	▲ 160
現預金	121	165	▲ 43	仕入債務	335	368	▲ 32
売上債権	1,140	1,157	▲ 17	短期借入金	1,262	1,382	▲ 120
たな卸資産	1,635	1,520	115	その他	441	448	▲ 7
短期貸付金	6	7	▲ 2	固定負債	1,661	1,568	94
貸倒引当金	▲ 4	▲ 4	▲ 0	長期借入金	1,372	1,278	94
その他	95	76	19	その他	289	290	▲ 0
				負債合計	3,699	3,766	▲ 66
固定資産	2,210	2,244	▲ 35	株主資本	1,217	1,072	146
有形固定資産	1,404	1,384	19	資本金	200	200	-
無形固定資産	205	219	▲ 15	剰余金	1,018	872	146
(内のれん)	81	91	▲ 11	自己株式	▲ 1	▲ 1	▲ 0
投資その他資産	602	641	▲ 39	その他の包括利益累計額	36	83	▲ 47
				非支配株主持分	250	246	4
				純資産合計	1,504	1,400	103
資産合計	5,203	5,166	37	負債純資産合計	5,203	5,166	37

6. 中期経営計画 Innovation toward 2021目標値の推移

	【計画策定時】	【初年度】	【最終年度】
	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	2022年3月期 計画
売上高	9,188億円	9,225億円	1兆円
営業利益	245億円	218億円	310億円
ROA (経常利益)	5.5%	4.9%	5.7%
D/Eレシオ	2.3倍	2.1倍	1.5倍
自己資本比率	22.3%	24.1%	30.0%

Thank You



MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他本書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します